

善知鳥峠

伊那谷から松本平へ通じる峠

霧訪山断層の断層鞍部に位置する峠。太平洋側の伊那谷と、日本海側の松本平の中央分水嶺になっており、峠には分水嶺の碑もある。江戸時代から明治の初期までは、中馬街道の発着点の松本と飯田を結ぶ伊那街道の峠として人馬の往来で賑わった。そのため峠から北小野にかけての地区内には、馬の供養や安全祈願のために建てられた石の馬頭観音が非常に多い。



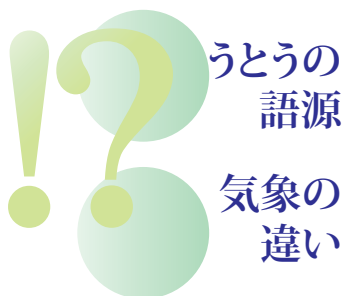
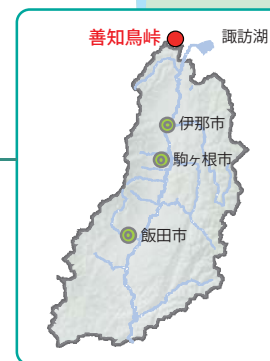
国道153号線沿いの現在の善知鳥峠頂上



「水のわかれ」分水嶺の碑

information

- アクセス
塩尻ICから5km
車→10分
- 所在地
塩尻市上西条
～北小野



うとうの
語源

うとうの語源は、海鳥や能の善知鳥によるとの説がある。また、昔は峠の北側が急傾斜で、堀割り場であったので、地形による空洞であろうともいわれている。

気象の
違い

善知鳥峠は塩尻峠と同様に、分水嶺にあたることから、太平洋側の伊那谷と日本海側の松本平とでは気象が大きく異なる。特に、伊那谷側は雨が多いため、壁の際に「しぶけ除け」と呼ばれる腰板を張り巡らした家も見られる。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)